

矢祭中の新聞活用

矢祭中の特別支援学級は、教育に新聞を生かすNIE（Newspaper in Education）に取り組んでいる。今年度、県NIE推進協議会の実践指定校に選ばれた。県内で特別支援学校・学級に特化した指定は初めてで、成果に注目が集まる。新聞の活用が生徒の長所を引き出し、社会参加がより一層進むよう、切に願う。

生活単元学習の時間に採り入れた。生活単元は国語や数学、地理といった単一の科目とは違い、さまざまな教科と特別活動や道徳などの領域を合わせて指導する。クッキーを作って販売する授業を例に挙げれば、製造する家庭科、店の看板を作る国語と技術、

利益を生む計算をする数学、協調性を身につける道徳などいくつもの要素を含む。生徒は活動を通して、社会生活に必要な生きる力を育む。

特別支援学級・若杉学級を担当する小河美智子教諭の発案で、新聞活用が始まった。学級の五人の生徒は新聞や文

全県への広がりを目指す

字に興味を示していた。強い興味を生かし、社会に目を向けさせようと考えた。五月の通常授業開始からほぼ毎日、新聞を使っている。気になる

記事をストックし、ファイルにまとめる。一人一人が感想を書き、発表する。

小河先生は記事を音読しな

から難しい言葉に解説を加える。記事上の数字から計算問題を出題したり、教室での出来事に置き換えて注意を引いたり、常に言葉のキャッチボールを欠かさない。生徒の集中力に応じて十五分で終わるときもあれば、一時限を目標

ばい使うときもある。生徒の主体性を重んじて臨機応変に対応し、最大限の効果を引き出す工夫だろう。

記事を読み込んだ生徒の感想はさまざまだ。ただ、それぞれが自由な捉え方をする中で、新聞は確実に身近な存在になっているという。社会の出来事への関心が高まり、新

聞に載っていたニュースについて生徒同士で自然と話し合うようになった。

NIE実践指定校制度は、一九九四（平成六）年度から展開されているが、特別支援学校・学級の指定は全国でも数少ない。過去の指定校は数時間の新聞活用にとどまる例が多く、矢祭中のように連日実践するのは珍しい。

新聞の記事は身近な話題から政治、経済、芸術、スポーツまで幅広い。関心が高い分野の知識を伸ばし、興味のないかった事柄を知るきっかけになる。毎日、新聞に触れる時間を持てば、生徒と社会の距離は縮まるはずだ。矢祭中方式のNIEが全県に広まるよう期待する。（鈴木 俊哉）

執筆陣をホームページ（<http://www.minpo.jp/>）で紹介

説

論